

穿刺困難者に対しての ペインレスニードル使用経験

太田ネフロクリニック

○高橋智仁 山中祐治 二階堂剛史 酒井伸一郎

【目的】

当院では穿刺困難なバスキュラーアクセスに対して、穿刺者を限定するなどの対策をしてきた。しかし、穿刺困難は患者とスタッフに多大なストレスを与える

今回、ペインレスニードル(以下PN)に変更することにより、患者及びスタッフへのストレス減少につながるかを検討した

【対象・方法】

当院の透析患者220名中、穿刺困難者10名（男性4名、女性6名）を対象に、通常の穿刺針からPN（メディキット社製）へ変更

1. 穿刺ミスの比較（回数や時間）
2. 患者とスタッフのストレス度チェック
3. エコー（COVIDIEN社製Nano Maxx）にて経過観察・評価（6ヶ月間後）

【穿刺ミスの比較】

～失敗率～

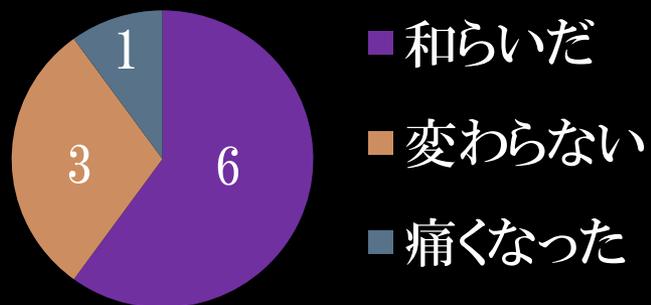


～時間～

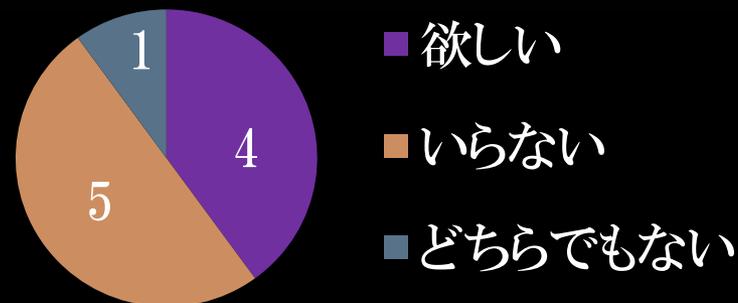


【患者10名へのアンケート結果】

PNにして痛みは
どうなりましたか？



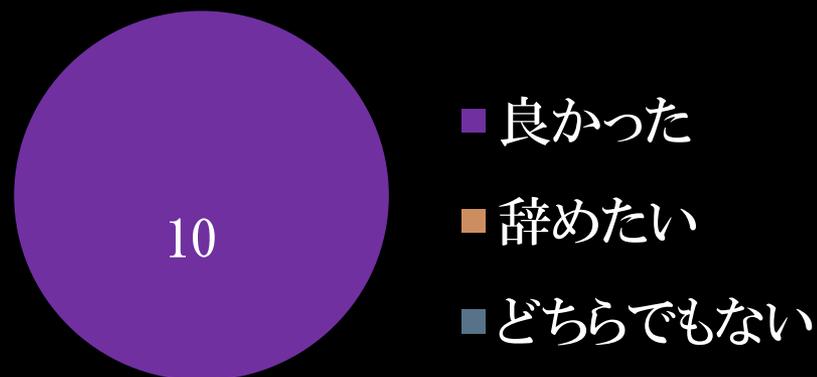
PNにしてリドカイン
テープは必要ですか？



PNにして穿刺時間は
どう感じましたか？



PN穿刺は必要ですか？



【スタッフ8名へのアンケート結果】

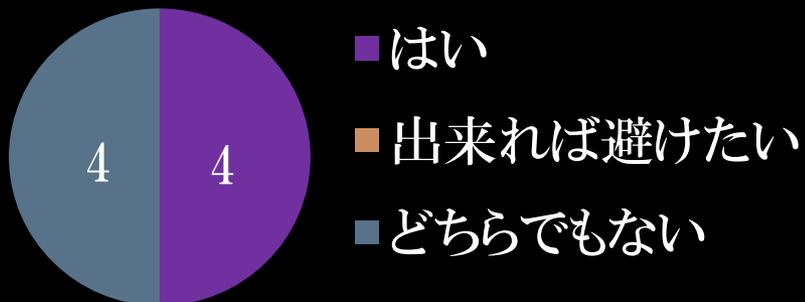
通常穿刺と比べて
技術的にどうですか？



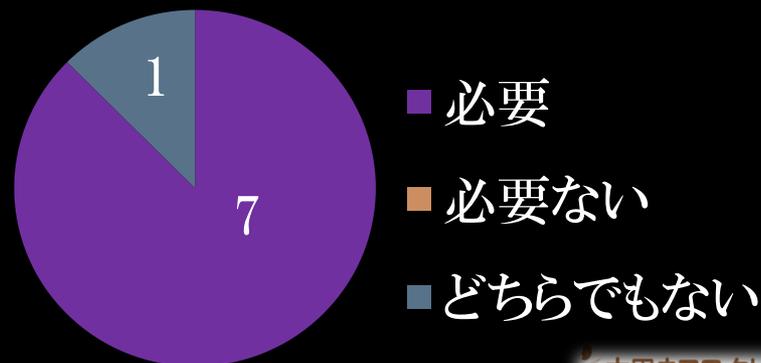
通常穿刺と比べて
精神的にどうですか？



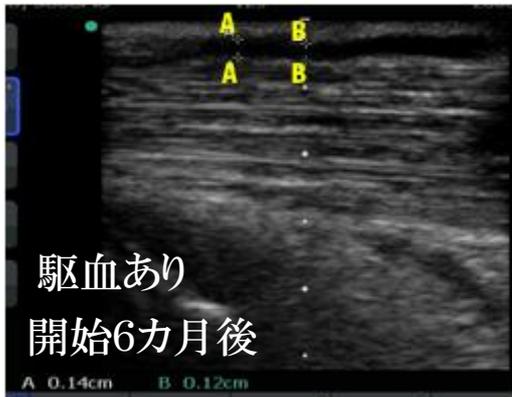
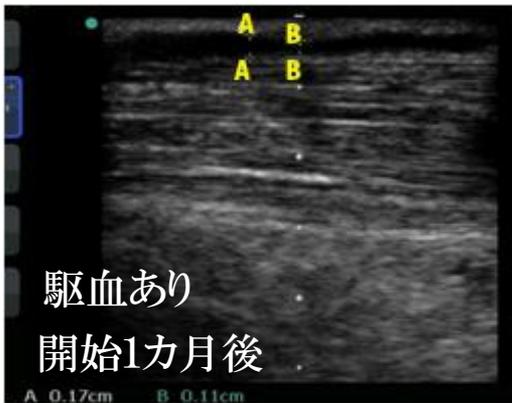
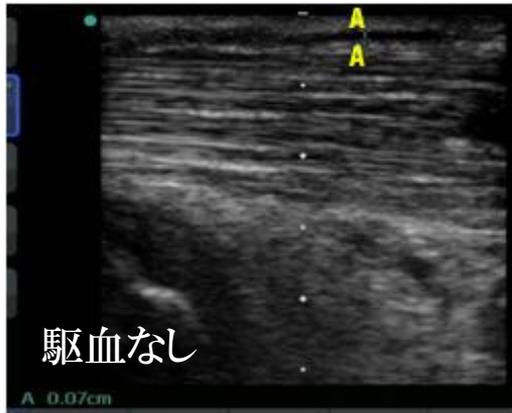
PN穿刺に
積極的ですか？



PNは必要ですか？



V側の血管内径が細い

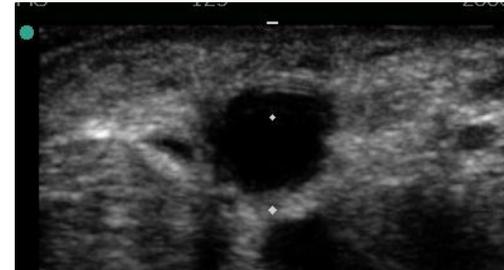
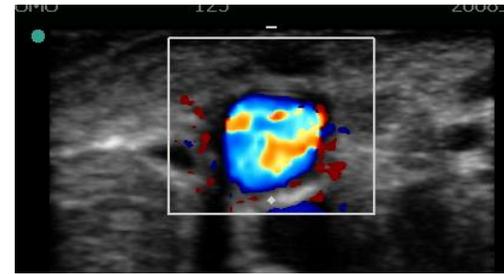


～症例報告～

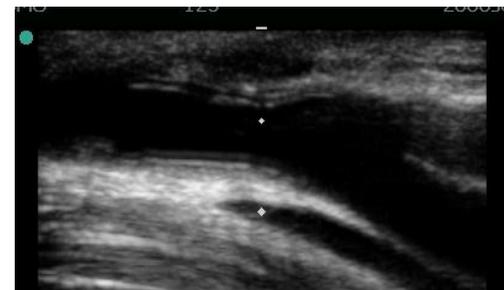
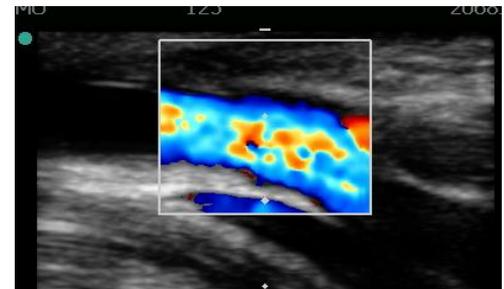
表在静脈が細く、穿刺ミスを繰り返す
動脈表在化部分は反復穿刺により、動脈瘤を形成している



A側は動脈瘤を形成

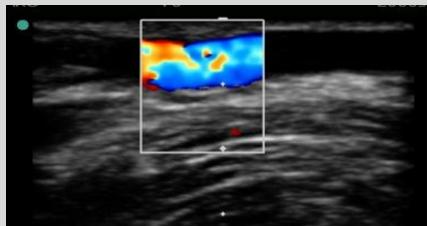


開始6カ月後





わずかな皮下組織の肥厚がみられる



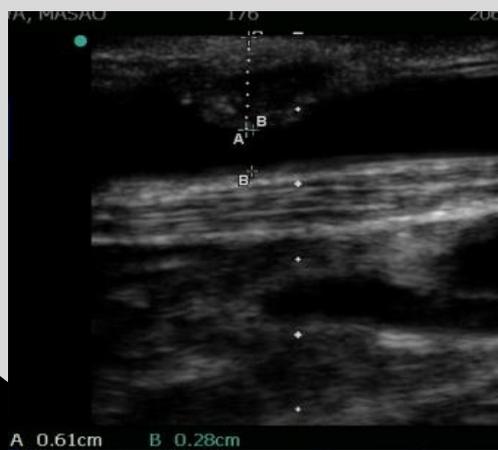
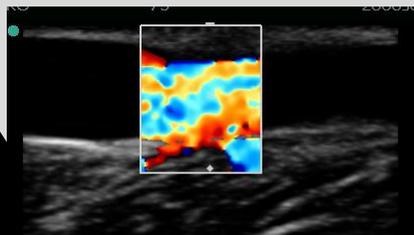
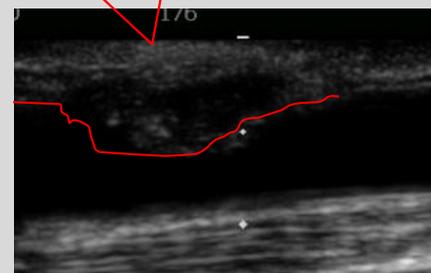
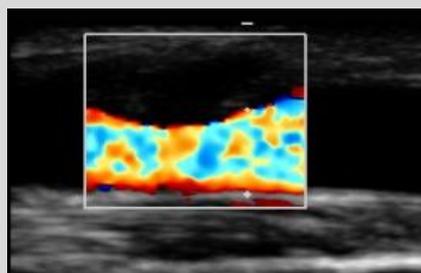
PNが入りずらく何度も針を抜き刺している

皮下組織の肥厚がひどく、血管内径が狭くなっている

透析導入時よりPNを使用(5年8か月)問題なく穿刺出来ている



わずかな皮下組織の肥厚がみられる



【結果】

- PNに変更し穿刺ミスの減少、穿刺時間の短縮がみられた
- エコーでの確認では、PNで問題なく穿刺できる症例では、わずかな皮下組織の肥厚であったが、入りづらい症例では皮下組織の肥厚がひどく血管内径が狭くなっていた
- 限定していた穿刺がPNにより他のスタッフが穿刺できるようになった

【考察】

- PNに変更しても入りづらい場合は、新たに穿刺部位を検討することが必要と思われる
- PN穿刺の長期使用は、男女問わず美容的に優れており(穿刺痕が残らない)、QOLを考えた穿刺法であると思われる
- 穿刺ミスに対して、恐怖心の強い患者にPNは有効であると思われる

日本透析医学会 CO I 開示

筆頭発表者名： 高橋 智仁

演題発表に関連し、開示すべきCO I 関係にある
企業などはありません。